

木上小だより

始業式での話（自分を磨こう）

○我慢する心をもとう

○思いやりの心をもとう

○挑戦する心をもとう

第2号 平成30年5月発行

よく育てるとはよく生活させること

この言葉は、4月のPTA総会の折に学校経営説明の中でご紹介した言葉です。子どもに「よい子に育ててほしい」「こんな子になってほしい」「あんな子になってほしい」という願いを親なら誰しももっていらっしゃでしょう。私たち教員も子どもたちと生活しながら、こんな児童になってほしい、こんな学校にしたいといろいろな目標や願いをもっています。

しかし、思っているだけでは実現できません。そこには実現に向かうための手立てや具体的な方法が必要になってきます。

その具体的な方法が、「よく生活させること」です。子どもは大人ではありません。まだ成長の過程にあります。したがって、大きくなるまでの間は大人の保護のもと生活させなければなりません。また少々大人の生活を子どもの生活に合わせていただく必要があります。

例えば寝る時間です。大人なら、夜の11時や12時寝て翌朝6時に起きても平気かもしれませんが、体力のない子どもは体がもちません。かといって、おうちの人が起きているのに子どもだけ眠る気にもならないでしょう。眠りにつくまでの間、一緒に寝るとか、いっそのことみんなで早寝するとか、何かしら子どもに合わせる工夫が必要になるのではないのでしょうか。

言葉遣いにしても、学校ではできるだけいい言葉を使うように指導しています。乱暴な言葉を使ったときは言い直させたり、使わないように指導しています。ご家庭でも、できるだけ構いませんので丁寧な言葉を意識していただければと思います。「美しい言葉は優しい心をつくる。乱暴な言葉は寂しい心をつくる」といいます。心根の優しい子に育てようとするなら、言葉遣いを優しい言葉にするのは有効であると思います。

また、子どもは、大人の背中を見て育ちます。耳の痛い話ですが「子どもは大人の言うようにはしないが、するようにはする」と言われます。そういえば、あるお父さんは、子どもの前でいつも本を読む姿を見せたそうです。すると、子どもも読書好きになり、勉強もできるようになったそうです。おうちの方や私たち教師は子どもたちの一番のモデルです。モデルになっている（いつも子どもに見られている）という意識は子育てをする上で大事だと思っています。（自戒を込めて）



木上小スナップ



5月10日(木)に交通安全教室を行いました。錦駐在所の所員の方と交通安全指導員の方々においでいただき、交通事故の怖さや交通ルールの大切さなどについて教えていただきました。その後は、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方などをしっかり学びました。交通事故は命に関わります。決して起こさないようご家庭でもご注意ください。

5月9日(火)の3校時に人権の花の伝達式を行いました。本年度木上小は「人権の花運動」の実施校に選ばれ、花の種やプランター、花の土などを伝達していただきました。この運動は、花を育てる活動を通して協力する心や感謝する心、命の大切さなどを学び、人権を大事にしようとする心を育てようという目的で行われます。きれいな花が心にも咲くようにみんなで育てたいと思います。



5月7日(月)に2年生が野菜の苗植えを行いました。今年もJA青壮年部のご協力で行うことができました。ありがとうございました。子どもたちは、1人に1つずつミニトマトや、シシトウ、ピーマンなどを大事そうに植えていました。夏にはたくさんの実を付けることだと思います。一生懸命お世話ができるかな。実るのが楽しみです。

5月16日から18日にかけて5年生は集団宿泊教室に行ってきました。集団宿泊教室では、水俣病学習を始めとして、環境学習、あしきた青少年の家でのマリ活動やナイトゲームなど日頃できない体験をたくさん経験してきました。水俣病学習の講話では大変立派な態度で参加することができ、先生方も感心していらっしゃいました。今後の成長がますます楽しみです。5年生です。

